

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大 学 名	東京外国語大学
整理番号	B-1
事 業 名	日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p>本プログラムは、日本語教育の世界的拠点の東京外国語大学とヤンゴン大学、ラオス国立大学及び王立プノンペン大学と関連学科の双方向教育を学部と大学院で実施し地域研究を推進すると同時に、日本・日本語教育者の人材養成を目的としている。</p> <p>連携先3か国の言語教育課程を有する専門性の高い大学としての特性を十分に活用し、学部前半での短期共同教育プログラム、学部後半での交換による長期留学プログラム及び大学院レベルでの交換プログラムという3段階の双方向教育プログラムとなっており、事業計画が着実に実施されている。派遣、受入の交流学生数も目標を達成しており、単位互換についても一定の成果を挙げている。派遣学生が相手大学で実施する日本語教育支援の事前学習や受入学生の社会的活動支援など、日本と連携先3か国を結ぶグローバル人材の育成に貢献する体制が整備されている。また、教育の質保証のため、語学の評価指標の構築がプログラム全体で強く意識されており、成果を挙げている。相手大学との連絡調整、受入・派遣体制等についても、きめ細かく整備されている。さらに、求める知日人材を育成するため、全学教養日本力プログラムの充実や受入学生への日本企業でのインターンシップの実施など、プログラムの改善を積極的に図っている点は評価できる。</p> <p>一方で、大学院生の受入は少なく、王立プノンペン大学から教員を国際日本専攻日本語教育リカレントコースに受け入れる等の取組は評価できるが、より一層大学院レベルでの交流の拡充が望まれる。また、日本人学生の語学力の向上については目標を大きく下回っており、更なる改善が望まれる。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。</p>